

# サオ語の従属節（条件節と連体節）について

—サオ語話者によって仮名で表記されたサオ語による伝承物語を資料として—

新居田 純 野

The structure of complex in the Thao language (Taiwan)

NIIDA Sumino

## Abstract

Thao is the language of the native Thao people residing in Taiwan's central region, a language that belongs to the Austronesian family of languages. In 2001 the Thao people were officially recognized by the Taiwanese government as the 'tenth aborigine' in Taiwan. Their traditional language is one of the 'languages on the verge of extinction (endangered language)' with drastically few speakers.

This paper is concerned with conditional clause and adnominal clause in the Thao language. By using classified data about sub-clause I researched the handwritten some Thao folk tales in Thao language that the speaker personally recorded by using Japanese Kana.

## 1. はじめに

サオ語は、台湾中部に居住する原住民サオ族の言語で、オーストロネシア語族に属する。サオ族は、中華民国台湾政府によって、第十番目の「原住民」として2001年に公認されたが、話者が非常に少なく、「消滅の危機に瀕した言語」の1つである。

これまでに、サオ語に関して記述されている資料は李方桂、陳奇禄、唐美君（1956年）による接辞分類と語彙集、物語の記録の「サオ語記略」、Li, Paul jen-Kueiの音韻・形態に関する論考、黄美金（2000）のサオ語文法の概略を記述した『サオ語参考語法』、Blust（2003）『サオ語辞書』等であり、現在サオ語の記述に関して十分とはいえない。本稿は、筆者が2003年から2009年までにおこなった現地調査により、80代のサオ語話者及び60代の男性から採集した用例をもとに、複文における従属節の条件節、連体節について、その構文形式を明らかにすることを目的とする。また、さらにより自然なサオ語の資料として、前述80代のサオ語話者によって、サオ語表記に仮名を使用して記述されたサオ族の物語もその資料としてみていくことにしたい。

## 2. 複文とは

複文は中心となる主節と主節に従属する従属節からなる複数の文で構成されている。そして、従属節は大きく連体節と連用節にわけられ、その類型として名詞節、連用節、連体節、並列節などが一般的にはあげられる。

サオ語の会話では、具体的な場面があって、その場面に沿って発話されることが多い。また、複文構造が十分に発達しているとはいえ、条件節や連体節などの複文相当の内容を話し手が聞き手に伝える場合は、話し手が発話した連続する単文の前後関係を聞き手が判断するのである。つまり、目の

前で行われていることを話題として提供することを第一のこととする文字をもたないサオ語においては、前後の発話内容の関連を示す複文のマークとなる言語成分、あるいは言語形式が会話の中で大きな役割を占めているとは言い難い。これまでの資料や現地調査では、いわゆる複文相当の内容を表現する場合、前後の文関係から判断する 경우가多く、条件を表すyaを除いて、資料に示されている原因、理由、目的を表すmaqa、累加、順接を表すmatsaháy、逆接を表すmuqayなどが連続する単文の関係を示すために使用されることは少ない。

そこで、まず本稿では、最初にサオ語話者に対して複文における条件節と連体節の日本語文を提示し、その内容をくみ取ってもらって一文で発話してもらった用例によって条件節と連体節を分類し、その分類をもとに聞き取り調査で要求されるような複文内容を意図的に一文で表現する、という制限のない、サオ語話者自身がサオ語で記録した昔物語を資料として考察を行う。

### 3. 複文における従属節

#### 3. 1 条件表現(条件節)

サオ語の条件節に関する調査では、庵（2001:208 - 213）と三井（2002: 85 - 101）の条件文の分類をもとに聞き取り調査をした。本調査によって実際に得られた調査用例を構文形式から分類すると、「条件を表すya (if相当) を指標とする場合」「時を表す語を指標とする場合」「実際に起こった内容を記述する場合」の三つに分類できる。

#### A. 条件を表すyaを指標とする場合

(1) ya ma - karishikishi k - m - alawa min - ma - fazaq.  
if 状 - 一生懸命 する - AF 起 - AF - 知る  
努力すればできるようになる。（仮定条件）

(2) ya mu - hiaw m - ilhilhi ma - qitan  
if 動 - 早い AF - 起きる 状 - よい  
もっと早く起きればよかった。（反事実的条件）

(3) ya antu shi - tantu ma - qitan ihu  
if 否 過 - そこ 状 - よい 2単主  
あんなところに行かなければよかった。（反事実的条件）

(4) ya mu - tusi ti Abish a taun miaqay pangka'un yakin.  
if 動 - そこ アビッシュ 連 家 いつも ごちそうする 1単対  
アビッシュの家に行くといつもご馳走してくれる。（反復習慣）

<sup>1</sup>ここで用いる表記は、子音はp,b,m,f,t,d,n,th[θ],s,z[ð],lh[ʃ],l,r,sh[ʃ],k,ng(g)[ŋ],q,[glottal stop],h,y,wである。母音は/a,u,i/の三つだが、/i/は/q,r/と連続するとき[e]、/u/は/q,r,ng/と連続するとき[o]となる。/b,d/の前と、語頭・語尾の母音はglottal stopが現れるが、本稿では、一部表記を省略した。用例は、2003年1月から2009年7月にかけて筆者が日月潭徳化社で行った調査によって得られたものである。本稿で使用する略記号は以下の通りである。AF actor focus (シテ焦点); PF patient focus(ウケテ焦点); LF locative focus(ハニョ焦点); 過 過去; 使 使役; 起 起動接辞; 存 存在動詞; 動 動作接辞; 否 否定; 主 主格; 対 対格; 属 属格; 単 単数; 複 複数; 1 1人称; 2 2人称; 3 3人称; 連 連結辞; 非 非実現; 助 助辞; 状 状態接辞; 未 未来接辞; 場 場所接辞; 完 完了; 重 重複; 接 接続詞; 副 副助辞

- (5) kahiwan ya k - un - shit pazay ya mu - kaktun - iza,  
 昔 if 稲刈り - AF 稲 if 動 - 終わる - 完  
 mashtay mu - sun mi - qilha mating - qaran.  
 一緒に 動 - 一緒に AF - 飲む 楽しくする  
 昔は稲刈りが終わると皆で酒盛りをした。(恒常的条件)
- (6) antu shana tima ya ma - nasha - iza qamishan mashtay yanan sa shiz  
 否 副助詞 誰 if 状 - 多い - 完 年 一緒に 持つ 病気  
 誰だって年を取れば具合の悪いところも出てくる。(恒常的条件)
- (7) yaku ya mu - tantu, mashkaktha mu - kaktun - iza.  
 1 単主 if 動 - そこ 会合 動 - 終わる - 完  
 そこへ行ったらもう会は終わっていた。(事実的条件)

## B. 時を表す語を指標とする場合

- (8) simaq a qusaz - in Abish antu painan mu - nay  
 明日 非 雨が降る - PF アビッシュ 否 たぶん 動 - ここ  
 明日雨が降ったらアビッシュは来ないだろう。(仮定条件)
- (9) tilha m - un - dadadan qusaz - in  
 昨日 AF - 重 - 歩き回る 雨が降る - PF  
 昨日、散歩をしていたら雨が降ってきた。(事実的条件)
- (10) yaku thuini m - angqtu kahiwan parhaway - uan ma - thuaw ma - karishkish.  
 1 単主 今 AF - 思う 昔 若い - まだ 状 - とても 状 - 仕事をする  
 今思えば、若い頃はずいぶん仕事をしたなあ。(前置き)

## C. 実際に起こった内容をそのまま表現する場合

- (11) antu mu - hiyaw maku - na - nay antu kmashuqtu  
 否 動 - 早い 動 - 重 - ここ 否 間にある  
 もっと早くくれば間に合ったのに(間に合わなかった)。(反事実的条件)
- (12) binanaw'az la - tusha ayuzi la - turu min - ta - rima  
 女 二人 男 三人 起 - 五  
 女二人と男三人で五人になる。(恒常的条件)
- (13) min - hiya - hiyaw yaku in - aura - n k - in - athu - n wa aniamin.  
 起 - LED - 早い 1 単主 過 - 忘れる - PF 持つ - 過 - PF 連 荷物  
 あわてて来たら忘れ物をしてしまった。(事実的条件)

前件の真偽が不明な場合を条件とする仮定条件であっても、前件が偽である反事実的条件であっても、前件がまだ実際に起こっていない出来事であれば、yaが使用される。(8)の場合は、次のようにyaを使って(8')のように表現することも可能である。これは仮定を表すyaを使って、これから起こることであろうことを予測しての発話形式となる。しかし、(9)～(13)のように、前件がす

で実現していることであればyaは使われずに、単なる出来事の叙述としての発話となる。

(8) ya simaq a qusaz-in Abish antu painan mu-nay

### 3. 2 連体修飾表現（連体節）

日本語の場合、連体節は内の関係と外の関係から論じられることが多いが、サオ語において、これらの違いが表現上、構文上にみられるのかどうかについて着目しながら、用例の分析を進めていくことにする。寺村（1993）のいう内の関係とは、主名詞が連体節内部の述語と格関係を持っていて、もとの文から、主格・対格・与格・属格などの名詞を取り出して後ろに置いたものであり、外の関係とは、そのような格関係を持っておらず、連体節が主名詞の内容説明をしているものである。たとえば、寺村（1993:192）に出されている以下のような用例をみると、その違いが分かりやすい。

- a. さんまを焼く男 ⇔ 男がさんまを焼く 内の関係
- b. さんまを焼く匂い ⇔ さんまを焼くときに出る匂い 外の関係

このように、内の関係、外の関係は連体節とその連体節によって修飾される主節の名詞との関係のありかたに着目したものである。

#### 3. 2. 1 内の関係

中国語における「兼語構文」とは、単文で動詞が二つある場合で、第一の動詞の目的語が次の動詞の主語を兼ねているような構造の文のことである。「私は彼がお酒を飲むのを見ている。／私はお酒を飲んでいる彼を見ている。」〈我看著他喝酒〉、「父は私が結婚するのを許した。／父は結婚する私を許した。」〈父親允許我結婚〉の「看」「允許」は、それぞれ動詞で、「見る」「許す」を表すが、その目的語〈他（彼）〉、〈我（私）〉は、その後続く〈喝（飲む）〉、〈結婚（結婚する）〉の主語をも兼ねている。このような名詞を兼語とよび、このような兼語構文は、サオ語でもみられる。（14）では、「maniun - あなた達」が兼語となっている。

(14) yaku m-riqaz maniun mia-qilha qilha

1 単主 AF - 見る 2 複主 (対) AF - 飲む 酒

私はお酒を飲むあなたたちを見ている。

このように兼語構文は寺村のいう内の関係にあたるもののひとつであるといえるだろう。しかし、本研究によると、兼語構造を持つ連体節はその兼語が主節、従属節における主語か補語かの組み合わせによって構文形式が異なることが明らかになった。

（以下□は兼語）

#### A. 兼語が主節の補語・従属節の主語である場合（後ろから名詞を修飾する）

主節主語 + 主節述語 + 兼語（主節補語・従属節主語） + 従属節述語

(15) yaku miarain m-angqtu nak a azazak i-tusi Taipak sh-m-upish patashan

1 単主 いつも AF - 思う 1 単属 連 子供 場 - そこ 台北 勉強する - AF 本

私はいつも台北で勉強している私の子供のことを思い出す。

(16) ya bariz-an a taun a Ali m-in-aka-tusi kariawan maku-na-nay

if 隣り - LF 連 家 連 アリ AF - 過 - から - あそこ 埔里 動 - 重 - ここ

埔里から来たアリさんは隣に住んでいる。

## B. 兼語が主節の主語・従属節の補語である場合（前から名詞を修飾する）

従属節主語＋従属節述語＋兼語（従属節補語・主節主語）＋主節述語

- (17) mashintaz kilash mu - Taipak a huruy ti Abish  
 一緒に キラシ 動 - 台北 連 友達 アビッシュ  
 キラシと一緒に台北に行った友達はアビッシュだ。
- (18) yaku shi - tusi Taipak qusaz - in mani thuini.  
 1 単主 過 - そこ 台北 雨が降る - PF また 今日  
 私が昨日行った台北は今日も雨だ。
- (19) Ali qata - du - n thithu wa ayuzi Abish.  
 アリ 動 - よい - PF その 連 男 アビッシュ  
 アリさんが好きな男はアビッシュだ。
- (20) miaqay u - ta - tantu - n kilash a hudun huya wa hudun  
 いつも 動 - 重 - そこ - PF キラシ 連 山 その 連 山  
 キラシがいつも行く山はあの山だ。
- (21) Ali miaqay u - ta - tantu - n thithu a huruy a taun i - kariawan  
 アリ いつも 動 - 重 - そこ - LF その 連 友達 連 家 場 - 埔里  
 アリさんがよく行く友達の家は埔里にある。
- (22) tilha f - in - ariw a fizfiz ma - thuaw ma - qitan kan - in  
 昨日 買う - 過 連 バナナ 状 - とても 状 - よい 食べる - PF  
 昨日買ったバナナはおいしかった。

## C. 兼語が主節の補語・従属節の補語である場合（共通の補語を文末に持って行って前から修飾する）

主接主語＋主節述語＋従属節主語＋従属節述語＋兼語（主節補語・従属節補語）

- (23) yaku ma - shuru - iza k - m - an yaku k - in - alawa ina wa ma-dahun  
 1 単主 状 - お腹がすく - 完 食べる - AF 1 単主 作る - 過 - PF 母 連 状 - 甘い  
 お腹がすいたので、お母さんが作った菓子を食べた。

ただし、(24) のように、兼語（主節補語・従属節補語）が従属節の主語、述語の前に出る場合もある。

- (24) Ali a sh - in - aqish a ma - qulha wa thuini hulus ifaz - in nak a azazak  
 アリ 連 縫う - 過 連 状 - 赤 連 今日 服 着る - PF 2 単属 連 子供  
 アリはが私の子供が着ている赤い服を作った。

## D. 兼語が主節の主語・従属節の主語である場合（従属節と主節の述語を並列させる）

並列節とも考えることができるが、本稿では連体節として扱った。

兼語（主節主語＋従属節主語）＋従属節述語＋主節述語

- (25) Abish k - m - in - an - iza m - usha - iza mu - buhat  
 アビッシュ 食べる - AF - 過 - 完 AF - 行く - 完 動 - 畑

ご飯を食べた **アビッシュ** は仕事をしに畑に行った。

- (26) **Abish** m - in - aka - mankathi ka - ma - thu ma - ra'in a aniamin maku - na - nay  
アビッシュ AF - 過 - から - 遠く 持つ - AF 状 - 大きい 連 荷物 動 - 重 - ここ  
向こうから大きな荷物を持った **アビッシュ** がやってきた。

- (27) **Abish** pangka ka - ma - n tamaku ma - thuaw ma - zima ka - ma - n afu  
アビッシュ 休む 食べる - AF タバコ 状 - とても 状 - 楽しむ 食べる - AF ご飯  
**アビッシュ** はタバコをやめたのでご飯をよく食べる。

### 3. 2. 2 外の関係

外の関係というのは、修飾される名詞が連体節の述語と補語の関係を持たず、連体節が修飾する名詞の内容などを表しているものであるが、サオ語では連体節の形式を取らずに、発話しやすい内容に変換されて表現される。

- (28) 道から大声で話している人の声が聞こえる。⇒私は道で話している大声を聞いた。

yaku tmaza i - saran ma - ra'in a lalawa malhinuna  
1単主 聞く - AF 場 - 道 状 - とても 連 話 話す - AF

- (29) 私はアビッシュが昨日来なかった理由を聞いた。

⇒私はアビッシュが昨日なぜ来なかったか聞いた。

yaku ma - kikalhi Abish minu tilha ka a uka tu mu - nay  
1単主 AF - 聞く アビッシュ なぜ 昨日 疑問詞 非 否 動 - ここ

- (30) アリさんの子供が台北に行った日を知っていますか。

⇒アリさんの子供はいつ台北に行ったか知られていますか。

Ali ya azazak ka - fazaq - in kaiza shi - tusi Taipak  
アリ 連 子供 知る - PF いつ 過 - そこ 台北

- (31) サオ族のお祭りに歌う杵歌は皆が知っている。⇒お祭りの歌はみんな知っている。

Lus'an a pa - qa - quyash ya quyash mashtaz ma - fazaq  
祭り 連 使 - 重 - 歌 if 歌 一緒に 状 - 知る

- (32) 遠くで鐘を打つ音がする。⇒遠くに聞こえる小さな鐘の音がある。

i - hazish yanan kana - shalinshin a qalushinar tmaza - n  
場 - 遠い 持つ 鐘 連 音 聞く - PF

## 4. 仮名で記録されたサオ語によるサオ族の物語を資料<sup>2</sup>として

サオ語には表記する文字がないため、サオ語話者の高齢化に伴って、サオ語そのものはもちろんのこと、人から人へと語り継がれてきた伝承物語やサオ族の慣習、お正月にのみ歌うことが許される歌なども含めて、消滅の危機に瀕している。これまでにまとまったサオ語の記録として出版されたものはBLust (2003) の *THAO DICTIONARY* (英語による記述) のみで、これから消えていくであろうサオ語の資料としては十分とはいいがたい。しかも、サオ語を自由に話せる話者は高齢者のみで、

<sup>2</sup>本資料の平仮名表記は安部他(2007)に掲載したものである。

その数は10人にも満たないという現状において、突出してサオ語が堪能である80代のサオ語話者は、日本統治時代に日本語教育を受けており、仮名書きができ、その仮名を使用して、サオ語に関する伝承物語やサオ語を記録している。

本調査では、80代男性のサオ語話者による仮名で記録されたサオ語資料をサオ語で発音してもらい、その後、点検及び文法的注釈を付けた。その資料をもとに、3章で分類した複文における従属節（条件節と連体節）が実際にどのように表現されているのかみていくことにする。

【平仮名によって記述されたサオ族の物語：妊娠を知らせる幸せな鳥 - フクロウ】

(33) から (63) の用例は以下のようにになっている。

一行目：平仮名表記によるサオ語

二行目：音韻表記によるサオ語

三行目：文法的注釈

四行目：日本語訳

(33) まかあーらんー みかずうー いだい るうんふうあず ぬま さあーに

ふういぶういるう さりーだん

ma - qaran m - riqaz i - zay rumfaz numa shanti'az

fuifulh shanrizan

状 - うれしい AF - 見る 場 - その 鳥 接 シャンティアル (妻の名前)

教える シャリザン (夫の名前)

その鳥をみてうれしいと、シャンティアルはシャンリザンに言った。

(34) あに いつなあ しみるうわ まはたは いだいや るうんふうあず ぱるしやん たい

ani ina shmirua h - m - adana i - zay a rumfaz parshian zai

否 母 ゆるさない 飼う - AF 場 - その 連 鳥 縁起が悪い 言う

お母さんは縁起が悪いとって、その鳥を飼うことを許さない。

(35) はたあなん みやかい みだい やきん まだい ぷひやう ふうーさあ

hadana - n miaqay m - zai yakin m - zai p - uhiaw pulha

飼う - PF いつも AF - 言う 1 単対 AF - 言う 使 - 早く 離す

早く離しなさいといつも私に言う。

(36) あぬにん かあ ぷひやうーふうさ あにい さあーに と みくうーふうさ

anunin ka puhiaw pulha ani shanti'az tu miku - pulha

何をする 疑問詞 早く 離す 否 シャンティアル 好き - 離す

早く離しなさいと言うけれど、シャンティアルは離したくない。

(37) さりだん みだい とう いなあ ららあわあ のまいー ぶさん さあーに ぶとしん

shrizan m - zai tu ina wa lalawa(tmaza) numa p - usha - n shanti'az pu - tusi - n

AF - 言う 母 連 話 聞く 接 使 - 行く - PF 使 - そこ - PF

シャリザンはシャンティアルにお母さんの話を聞きなさいと言う。

(38) のまいー ぶさん さあーに ぶとしん たあうなあ たなでくうす ぬまさ さまでや

だいん やかあい むなない

numa p - usha - n shanti'az pu - tusi - n taun a tanariqush

numa sa shmadia zai - n shanti'az yaqay mu - na - nay

接 使 - 行く - PF 使 - そこ - PF 家 連 裏

接 ふくろう 言う - PF いつも 動 - LED - 来る

家の裏の山に連れて行って、どこにいても必ずこっちに帰りなさいとシャンティアルはフクロウに言った。

- (39) やまほんほん や きにるうあかに やかい むうさい たなありくす みんなあーばう

ya ma - humhum ya k - in - ilha - kan - in yaqay mu - say tanariqush m - imbabaw

if 状 - 暗い if 探す - 過 - 食べる - PF いつも 動 - そこ 裏 AF - 呼ぶ

暗くなって食べ物食べて裏に来たら、私を呼びなさい。

- (40) あまか やくうーあむう らあうらあ まるうす あみやかい

a - maqa yaku a - m - usha aura m - alhulh a - miaqay

非 - 接 1 単主 非 - AF - 来る わかる AF - 寝る 非 - いつも

帰ってきて呼んだらわかるので、いつも安心して寝られる。

- (41) やくう まにととうや まふん ふうん

yaku mangqtu - qtu ya ma - humhum

1 単主 思う - 重 if 状 - 暗い

夜になったら私はいつも思う。

- (42) やささぬう まに いんばあうーやきん

ya shashanu mani imbabaw yakin

if 朝 また 呼ぶ 1 単対

朝には私を呼んでください。

- (43) たあとういだーや まほんほん みやかいいつてや みんなばあう さあーに ますわう

まからん

dadu - iza ya ma - humhum miaqay itia m - imbabaw shanti'az ma - thuaw

本当 - 完 if 状 - 暗い いつも 存 AF - 呼ぶ 状 - とても

ma - qaran

状 - うれしい

約束どおり夜いつもフクロウはシャンティアルをよぶので、シャンティアルはともうれしい。

- (44) やーらまあーだあわん むうくうわるう みんなあーばあう みんなからいだ

みきーと なあーはりすう さまーてやー みんなばあう らたとうたあ たまだん

ya lhmazawan mukualh m - imbabaw ming - qaray - iza

if はじめ 近い AF - 呼ぶ やがて - 完

makit - na - hazish shmadia m - imbabaw ladadu - iza tmaza - n

遠くなる ふくろう AF - 呼ぶ 小さい - 完 聞く - PF

はじめ近くで鳴いていたが、やがて遠くなって、鳴く声もだんだん小さくなった。

- (45) いしすうわいだ さあーにい むうーらあーうらあー まあーすうー たと さまてや とんー

とう さあーに いだだい しすう らあーわあ



- ishisua - iza shanti'az m - usha aura malhus dadu  
 そのとき - 完 AF - 行く できる 寝る 本当に  
 shamdia tundu shatiaza a in - za - zai thithu wa lalawa  
 フクロウ 聞く シャンティアル 非 過 - 重 - 言う 3単属 連 話  
 フクロウはシャンティアルの話したことをよく聞いたので、シャンティアルはその時本当に眠ることができた。
- (46) やまたん さあらーぴいだ きるうあかにん にだ さ さまあーてや  
 ya matan shara - piza kilha - kan - in - iza sa shmadia  
 if 暗い 夕方 探す - 食べる - PF - 完 フクロウ  
 夕方になったら、どこかへ餌を探しに行った。
- (47) のまや ささ の まてん ふんふん きみりん あかにん  
 ぴしりやしださ かり ばんかあいだ  
 numa ya shashanu mating - humhum k - m - ilhim a kan - in  
 接 if 朝 状 - 暗い 探す - AF 非 食べる - PF  
 pish - lhias - iza sa qali pangqa - iza  
 明るくなる - 完 日 休む - 完  
 朝の早いうちにえさを探して、昼間は休んだ。
- (48) おんこをるうずう まあるうす のまあわん すういに さ さまてや やまりやすう  
 ungquruz malhus numa - wan thuini sa shmadia ya ma - lhias  
 隠れる AF - 寝る 接 今 フクロウ if 状 - 明るい  
 もしまだ明るい時、フクロウは隠れて一日中ねる。
- (49) みやらいん まるうす たたわ かありー まかーいんだい さあーにい  
 miarain malhus tata wa qali maqa in - zai shanti'az  
 ずっと AF - 寝る 一 連 日 接 過 - 言う シャンティアル  
 一日中寝ていなさいとシャンティアルが言った。
- (50) ますわう とんとう さあーにや いんだだい やららわ  
 ma - thuaw tundu shanti'az in - za - zai a lalawa  
 とても 聞く シャンティアル 過 - LED - 言う 連 話  
 シャンティアルが言う話をよくきいた。
- (51) のまわ くなさすにやん さあーまでや みかあいとんまあだ さあーにや ららわ  
 numa wa kun - ashashanu - n shmadia miaqay t - un - maza shanti'az a lalawa  
 接 連 まで - 夜明け フクロウ いつも 聞く - AF シャンティアル 連 話  
 フクロウはいつも朝までシャンティアルの話を聞く。
- (52) あに さ ぬまぬまは るうんふあと まかまあ ほんほん きるうあかにん  
 みんくうーるうむうずう まばかりうす  
 ani sa numa - numa wa rumfaz tu maqa ma - humhum kilha - kan - in  
 否 いろいろ - 重 連 鳥 接 状 - 暗い 食べ物を探す - PF  
 ming - kulhmuz mapa kalhus

- 皆 一緒に 寝る  
 いろいろな鳥は夜に餌を探しに行かないで、みんな寝る。
- (53) むうかいーさまでやさ かんはほんほん きるう あかにん  
 muqay shmadia qan - humhum kilh - a - kan - in  
 だけ フクロウ 暗い中を歩く 食べ物を探す - PF  
 フクロウだけ暗い中を餌を探しに行く。
- (54) ますわう かたいたりん まかあ まぱあ いんばあ ばわぼう、ぬまさ いなわわ  
 さまでいや うたたあらん さまでやわ ほけえ  
 ma - thuaw ka - daydaz - in maqa mapa im - ba - babaw、  
 状 - とても 面倒をみる - PF 接 (だから) 互いに 重 - 呼ぶ  
 numa sa ina wa shmadia un - ta - tal - an shmadia wa huqi  
 接 母 連 フクロウ 一つ - 重 フクロウ 連 子供  
 とてもよく面倒をみる。だから、互いに何度も呼んで、そして、母フクロウは子フクロウと一  
 緒にいる。
- (55) さまでやあは たまるうん まかりすきし きみりん くうくうらい  
 ぱかん さあーまでや は ほけえ  
 shmadia wa tamulun ma - karishkish k - m - ilhim kukulay  
 フクロウ 連 オス 状 - 一生懸命 探す - AF 虫  
 pa - kan shmadia wa huqi  
 使 - 食べる フクロウ 連 子供  
 オスのフクロウは虫を探して、フクロウの子供に食べさせる。
- (56) のまわん さてやあ いなあ まさ たまるうん まーぱあーいんばあばあう  
 numa - wan shmadia wa ina masa tamulun mapa im - ba - babaw  
 接 フクロウ 連 母 一緒に オス 互いに 呼ぶ - 重  
 メスとオスのフクロウが互いに呼び合う。
- (57) さ たまるうん や いてやあ おんとをあん さ くうくうらい さしん  
 ぱかん さまでやわ ほけえ  
 sa tamulun ya itia ung - qtu - an sa kukulay sas - in  
 オス if 存 見つける - LF 虫 持って行く - PF  
 pa - kan shmadia wa huqi  
 使 - 食べる フクロウ 連 子供  
 オスは虫を見つけたら、子供に食べさせるために持って行く。
- (58) ぴだいだあ ほをらわず おかさ さまでやと むうあぱう みんばあぱう  
 piza - iza wa furaz uka sa shmadia tu mu - apaw m - imbabaw  
 何 - 完 連 月 否 フクロウ 動 - 出る AF - 呼ぶ  
 何ヶ月も出てこないフクロウは呼びもしない。
- (59) みやかいだ て さあーに おかいだ ひなたな やくうは さまーてや

miakaiza ti shanti'az uka-iza h-in-adana a yaku wa shmadia  
 考える シャンティアル 否-完 飼う-過 連 1単主 連 フクロウ  
 飼っていた私のフクロウはいなくなったらしいとシャンティアルは考えた。

- (60) みやらいん まんとう のまと ばすからい いていだ さあーまでや  
 miarain mangqtu -qtu numa tu pashukazay itiza shmadia  
 いつも 思う-重 接 長い時間 戻る フクロウ  
 いつもフクロウのことを考えている。そして、フクロウは戻った。

- (61) みんなあばあう ますわう さあーに こんかわらん だいん しす  
 さりだん いてばさまーてや

m-imbabaw ma-thuaw shanti'az qung-qaran zai-n thithu  
 sharizan itiza sa shmadia  
 AF-呼ぶ 状-とても シャンティアル 起-うれしい 言う-PF 3単主  
 シャリザン 戻る フクロウ

(フクロウが) 呼ぶので、シャンティアルはとてもうれしくなって、シャリザンにフクロウが戻ったよと言った。

- (62) みんなあばあう ますわう らとさ いさあーやなん ぴしいから からん  
 まば いんららばあだ いさやなん

m-imbabaw ma-thuaw la-tusha isa yanan pish-qar-qaran  
 mapa in-para-paraw isa yanan  
 AF-呼ぶ 状-とても 二人 そこで ベッド 喜ぶ-重

一緒に 過-重-踊る そこで ベッド

フクロウの呼ぶ声を聞いてうれしくて一緒にベッドで踊った。

- (63) いすすうわいだ さあーに とりいだあにだ のま やみん さあーうーやいてや  
 さまでや みやかい さまでや まふんふん さきぬ みんなあう まからん にだ

ishisia-iza shanti'az tu lhizan-iza numa yamin thaw ya itia  
 shmadia miaqay shmadia ma-humhum shashanu m-imbabaw ma-qaran-iza  
 その時-完 シャンティアル 妊娠する-完 接 複単主 サオ族 if 存

フクロウ いつも フクロウ 状-暗い 朝 AF-呼ぶ 状-うれしい-完  
 その時シャンティアルは初めて妊娠した。そして、私たちサオ族は、もしフクロウが  
 いつもいて、フクロウが夜と朝に鳴く声を聞いたら妊娠していると思ってとてもうれしい。

#### 4. 1 条件節

物語の資料において、ya を使っている用例は以下の用例であった。

- (39) (41) (42) (43) (44) (46) (47) (48) (57) (63)

このように、サオ語では、実際にその出来事が起きていない場合の多くは条件を表すyaが使用される。ところが、(40)の用例ではyaを使わず、すべて非実現のマークであるaを使うことで仮定条件を表している。そこで、条件節の場合、実際に起こっていないことには、yaやaを使用して条件節を表すことがわかる。

#### 4. 2 連体節

連体節に関しては、物語の資料にはA.兼語が主節の補語・従属節の主語である場合とB.兼語が主節の主語・従属節の補語である場合の用例はみられなかったが、C. 兼語が主節の補語・従属節の補語である場合とD. 兼語が主節の主語・従属節の主語である場合の各構文形式が二例ずつみられた。また、CとDのあわさった主節と従属節の主語と補語が兼語となる用例もみられたので、ここではE. 兼語が主節の主語・従属節の主語と主節の補語・従属節の補語である場合（C+D）として新たに項目をたてた。これは調査の段階では得られなかった構文形式である。

A. 兼語が主節の補語・従属節の主語である場合（後ろから名詞を修飾する）

主節主語 + 主節述語 + 兼語（主節補語・従属節主語） + 従属節述語

B. 兼語が主節の主語・従属節の補語である場合（前から名詞を修飾する）

従属節主語 + 従属節述語 + 兼語（従属節補語・主節主語） + 主節述語

C. 兼語が主節の補語・従属節の補語である場合（共通の補語を文末に持って行って前から修飾する）

主接主語 + 主節述語 + 従属節主語 + 従属節述語 + 兼語（主節補語・従属節補語）

(45) Shamdia tundu shati'az a in - za - zay thithu wa lalawa  
 主節主語 主節述語 従属節主語 従属節述語 主節補語・従属節補語  
 フクロウはシャンティアルが言う話をよくきいた。

(50) tundu shanti'az in - za - zay a lalawa  
 (主節主語略) 主節述語 従属節主語 従属節述語 主節補語・従属節補語  
 (フクロウは) シャンティアルが言う話をよくきいた。

D. 兼語が主節の主語・従属節の主語である場合（従属節と主節の述語を並列させる）

兼語（主節主語 + 従属節主語） + 従属節述語 + 主節述語

(58) uka sa shmadia tu mu - apaw m - imbabaw  
 否 フクロウ 動 - 出る AF - 呼ぶ  
 主節主語・従属節主語 従属節述語 主節述語  
 出てこないフクロウは呼びもしない。

(62) la-tusha isa yanan pish - qar - qaran mapa in - para - paraw isa yanan  
 二人 そこで ベッド 喜ぶ - 重 一緒に 過 - 重 - 踊る そこで ベッド  
 主節主語・従属節主語 従属節述語 主節述語  
 喜んだ二人は一緒にベッドで踊った。

E. 兼語が主節の主語・従属節の主語、主節の補語・従属節の補語である場合（C+D）

主節の主語と述語の間に従属節を挟む。

主節主語・従属節主語 + 従属節述語 + 主節補語・従属節補語 + 主節述語

(55) tamalun k - m - ilhim kukulay pa - kan huqi  
 オス 探す - AF - 過 虫 使 - 食べる 子ども  
 主節主語・従属節主語 従属節述語 主節補語・従属節補語 主節述語 (主節補語)

オスのフクロウは探した虫をフクロウの子供に食べさせる。

- (57) tamalun ya itia ung -qtu -an sa kukulay sas -in ~  
 オス if 存 見つける -LF 虫 持って行く -PF  
 主節主語・従属節主語 従属節述語 主節補語・従属節補語 主節述語  
 オスは虫を見つけたら、その虫を持って行く。

## 5. おわりに

本稿では、聞き取り調査によってまず条件節と連体節の分類を行い、サオ語話者が日本語の仮名によって記述したサオ族の物語を資料として、聞き取り調査によって分類された条件節と連体節の構文形式がどの程度自然発話の中にみられるのかを考察した。このように、聞き取り調査などにおける媒体言語による影響を全く受けていない自然発話を資料とすることは、より自然なサオ語本来の姿を明らかにすることができるといえるだろう。今後さらに自然発話による資料をもとに、消滅の危機に瀕しているサオ語のありのままの姿を記述、分析していくことでサオ語の保存の一役を担いたいと考えている。

### 【資料】平仮名で記録されたサオ語物語と日本語訳

まかあーらんー みかずうー いだい るうんふうあず ぬま さあーに ふういぶういるうさりー  
 だん あに いたなあ しみるうわ まはたは いだいや るうんふうあず ぱるしやん たい  
 はたあなん みやかかい みだい やきん まだい ぶひやう ぶうーさあ あぬにん かあ  
 ぶひやうーぶうさ あにい さあーに と みくうーぶうさ さりだん みだい とう いなあ  
 ららあわあ のまいー ぶさん さあーに ぶとしん のまいー ぶさん さあーに ぶとしん  
 たあうなあ たなでくうす ぬまさ さまでや だいにん やかあい むなない やまほんほん や  
 きにるうあかに やかい むうさい たなありくす みんばあーばう あまか やくうーあむう  
 らあうらあ まるうす あみやかかい やくう まにととうや まふん ふうん やささぬう まに  
 いんばあうーやきん たあとういだいや まほんほん みやかいいつてや みんばあう さあーに  
 ますわうまからん やーらまあーだあわん むうくうわるう みんばあーばあう みんからいだ  
 みきーと なあーはりすう さまーてやー みんばあう らたとうたあ たまだん いしすうわいだ  
 さあーにい むうーらあーうらあー まあーすうー たと さまでや とんーとう さあーに  
 いだだい しすう らあーわあ やまたん さあーらーびいだ きるうあかにん にだ さ  
 さまあーてや のまや ささ の まてん ふんふん きみりん あかにん ぴしりやしださ  
 かり ぱんかあいだ おんこをるうずうまあるうす のまあわん すういに さ さまでや  
 やまりやすう みやらいん まるうす たたわかありー まかーいんだい さあーにい ますわう  
 とんとう さあーにや いんだだい やららわのまわ くなさすにやん さあーまでや  
 みかあいとんまあだ さあーにや ららわ あに さ ぬまぬまは るうんふあと まかまあ  
 ほんほん きるうあかあにん みんくうーるうむうずう まばかるうす むうかいーさまでやさ  
 かんはほんほん きるう あかにん ますわう かたいたりん まかあ まばあ いんばあ  
 ばわばう 、ぬまさ いなわわ さまでいや うたたあらん さまでやわ ほけえ さまでやあは  
 たまるうん まかりすきし きみりん くうくうらい ぱかん さあーまでや は ほけえ

のまわん さてやあ いなあ まさ たまるうん まーばあーいんばあばあうさ たまるうん や  
いてやあ おんとをあん さ くうくうらい さしん ぱかん さまてやわ ほけえ ぴだいだあ  
ほをらわす おかさ さまてやと むうあぼう みんばあぼう みやかいだ て さあーに  
おかいだ ひなたな やくうは さまーてや みやらいん まんとう のまと ぱすからい  
いていだ さあーまてや みんばあばあう ますわう さあーに こんかわらん だいん しす  
さりだん いてばさまーてや みんばあばあう ますわう らとさ いさあーやなん ぴしいから  
からん まば いんららばあだ いさやなん いすすうわいだ さあーに とりいだあにだ のま  
やみん さあーうーやいてや さまてや みやかい さまてや まふんふん さきぬ みんばあう  
まからん にだ

その鳥をみてうれしいと、シャンティアルはシャリザンに言った。お母さんは縁起が悪いとあって、その鳥を飼うことを許さない。早く離しなさいといつも私に言う。早く離しなさいと言うけれど、シャンティアルは離したくない。シャリザンはシャンティアルにお母さんの話を聞きなさいと言う。家の裏の山に連れて行って、どこにいても必ずこっちに帰りなさいとシャンティアルはフクロウに言った。暗くなって食べ物を食べて裏に来たら、私を呼びなさい。

帰ってきて呼んだらわかるので、いつも安心して寝られる。夜になったら私はいつも思う。朝には私を呼んでください。約束どおり、夜いつもフクロウはシャンティアルよぶので、シャンティアルはともうれしい。はじめ近くで鳴いていたが、やがて遠くなって、鳴く声もだんだん小さくなった。フクロウはシャンティアルの話したことをよく聞いたので、シャンティアルはその時本当に眠ることができた。夕方になったら、どこかへ餌を探しに行った。朝の早いうちにえさを探して、昼間は休んだ。もしまだ明るい時、フクロウは隠れて一日中ねる。一日中寝ていなさいとシャンティアルが言った。シャンティアルが言う話をよくきいた。フクロウはいつも朝までシャンティアルの話を聞く。いろいろな鳥は夜に餌を探しに行かないで、みんな寝る。フクロウだけ暗い中を餌を探しに行く。とてもよく面倒をみる。だから、互いに何度も呼んで、そして、母フクロウは子フクロウと一緒にいる。雄のフクロウは虫を探して、フクロウの子供に食べさせる。雌と雄のフクロウが互いに呼び合う。雄は虫を見つけたら、子供に食べさせるために持って行く。何ヶ月も出てこないフクロウは呼びもしない。飼っていた私のフクロウはいなくなったらしいとシャンティアルは考えた。いつもフクロウのことを考えている。そして、フクロウは戻った。（フクロウが）呼ぶので、シャンティアルはともうれしくなって、シャリザンにフクロウが戻ったよと言った。フクロウの呼ぶ声を聞いてうれしくて一緒にベッドで踊った。その時シャンティアルは初めて妊娠した。そして、私たちサオ族は、もしフクロウがいつもいて、フクロウが夜と朝に鳴く声を聞いたら妊娠していると思ってともうれしい。

#### 【参考文献】

（中国語）

李方桂、陳奇祿、唐美君（1956）「サオ語記略」『国立台湾大学考古人類学刊』7:137 - 166

黄美金（2000）『サオ語参考語法』（台湾南島語言4）台湾：遠流出版公司。

（英語文献）

Li, Paul jen - Kuei (1976) Thao Phonology. *Bulletin of the Institute of History and Philology*,

*Academia Sinica*47.2:219 - 244

- Li, Paul jen - Kuei (1983) Notes on Thao dialects. *Bulletin of the Department of Archaeology and Anthropology* 43:48 - 50. Taipei:National Taiwan university.
- Blust,Robert (1998a) Some problems in Thao phonology. In: Shuanfan Huang (ed.) *Selected papers from the Second International Symposium on Language in Taiwan*, 1 - 20. Taipei: Crane.
- Blust,Robert (1998b) A note on the Thao patient focus perfective. *Oceanic Linguistics* 37:346 - 53. (2001) Thao triplication. *Oceanic Linguistics* 40:324 - 335.
- Blust,Robert (2003) *Thao Dictionary*. Taiwan: Institute of Linguistics Academia Sinica.  
(日本語)
- 安部清哉・新居田純野 (2007) 『石阿松氏『サオ語語彙4000』—仮名が記録した太平洋の"危機言語"—』  
学習院大学東洋文化研究所調査研究報告53
- 安部清哉・長嶋善郎・新居田純野 (編)、土田滋 (監修) (2008) 『サオ語 (台湾・邵語) 語彙 (英語・  
日本語索引付) —サオ語研究資料 II—』学習院大学東洋文化研究所調査研究報告54
- 庵功雄 (2001) 『新しい日本語学入門』: 208 - 213. 東京: スリーエーネットワーク
- 寺村秀夫 (1993) 『寺村秀夫論文集 I』: 157 - 336. くろしお出版.
- 新居田純野 (2005) 「存在動詞における「遠/近」「可視/不可視」- オーストロネシア語 (サオ語) の場  
合 -」『国文学解釈と鑑賞』1: 164 - 173. 東京: 至文堂.
- 新居田純野 (2007) 「サオ語におけるevidentiality (証拠性) とアスペクト」『大葉大学応用日語学  
報』1: 136 - 155.
- 新居田純野 (2007) 「サオ語 (台湾中部) の否定表現」『東洋文化研究』9: 1 - 25. 学習院東洋文化  
研究所
- 新居田純野 (2007) 「サオ語の兼語構造について」『学習院大学東洋文化研究所調査研究報告』  
53: 345 - 350.
- 新居田純野 (2007) 「サオ語 (台湾) における焦点接辞と二項述語階層」『他動性の通言語的研究』:  
66 - 78. 東京: くろしお出版.
- 新居田純野 (2008) 「日本語との対照におけるサオ語の時間表現—テンス・アスペクト—」『対照言  
語学研究』17: 21 - 49.
- 新居田純野 (2008) 「日本語との対照におけるサオ語の授受表現」『東洋文化研究』10: 1 - 27.
- 新居田純野 (2008) 「サオ語 (台湾) における現場指示表現—日本語との対照から—」『人文』  
6: 213 - 231.
- 新居田純野 (2008) 「日本語との対照におけるサオ語の可能表現」『大葉大学応用日語学報』2: 197  
- 223.
- 新居田純野 (2008) 「サオ語 (台湾中部) の語順」『長崎外大論叢』12: 59 - 70
- 三井はるみ (2002) 大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック』「条件表現」科学研究費基盤研究  
(B): 85 - 101.
- 益岡隆志 (1997) 『複文』新日本語文法選書2. 東京: くろしお出版.
- 益岡隆志 (2002) 「複文各論」『日本語の文法4 複文と談話』: 65 - 116. 東京: 岩波書店.

[付記] 本稿は、次の研究成果の一部である。

（財）平和中島財団2009（平成21年度） 国際学術研究助成「仮名が記録する消え行く言語 - 台湾原住民語サオ語 -」（研究代表者：新居田純野（長崎外国語大学教授）、共同研究者：土田滋（台湾中央研究院言語学研究所・兼任研究員）、杜岱玲（台湾大葉大学兼任講師）